

子どもの事故予防啓発を 展開するために (乳幼児編)

石川県医師会
少子化対策委員会
(監修 久保実)



子どもの死亡原因の第1位は

不慮の事故であり、

事故の予防啓発が重要である！

子どもの死因順位（平成22年【2010年】）

	死 因				
年齢	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0歳	先天奇形・変形および染色体異常	周産期に特異的な呼吸障害等	乳幼児突然死症候群	不慮の事故	胎児および新生児の出血性障害等
1～4歳	先天奇形・変形および染色体異常	不慮の事故	悪性新生物	肺炎	心疾患
5～9歳	不慮の事故	悪性新生物	先天奇形・変形および染色体異常	心疾患	その他の新生物
10～14歳	不慮の事故	悪性新生物	自殺	心疾患	先天奇形・変形および染色体異常

具体的事故予防策

屋外での事故対策

- * シートベルトを使用
- * 自転車もヘルメット

家庭での事故対策

- * 転落・転倒対策
- * 誤飲・窒息に注意
- * お風呂の水は抜いておく
- * テーブルクロスはしない

子どもも必ずシートベルトを！

自動車が**時速50km**で走行中に衝突事故を起こした場合

⇒①子どもの**体重の30倍**の力が 加わり、人間の力では支えきれない

②高さ10mからコンクリートの地面に叩きつけられるのと同程度の衝撃

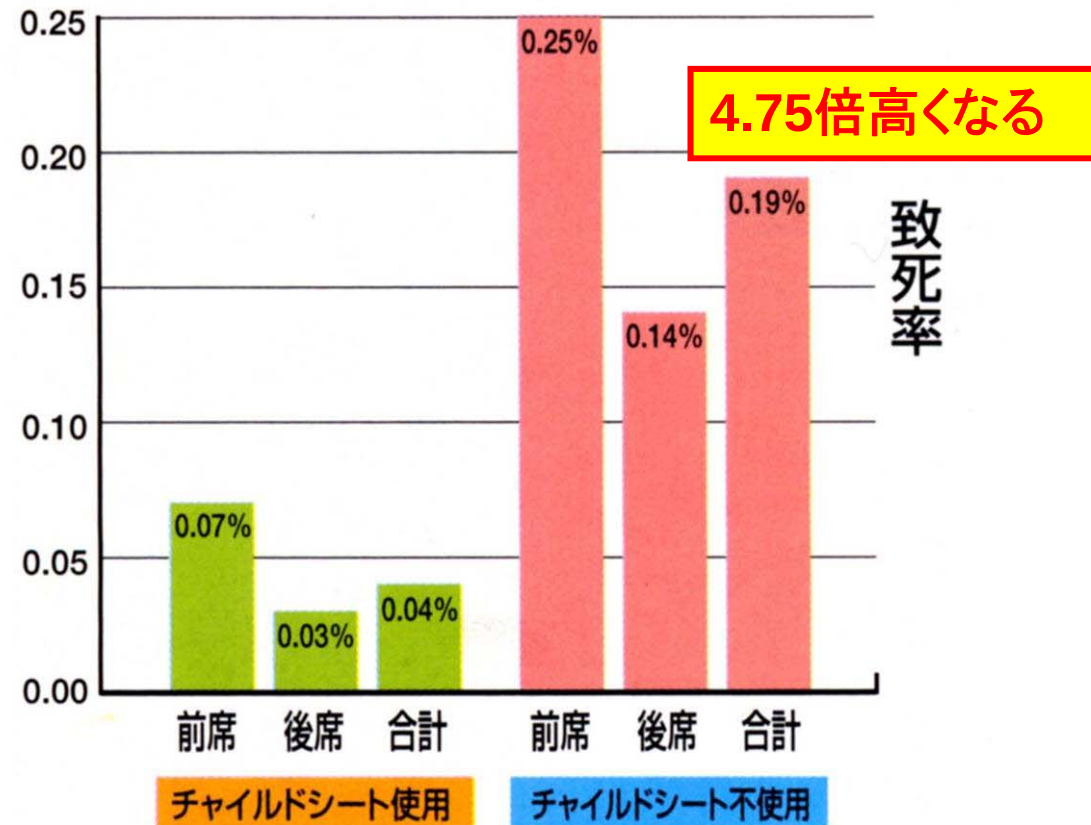
⇒**抱っこをした状態では、子どもを 守れない**(抱っこでしっかり「拘束」できるのはせいぜい時速5～7kmまで)

チャイルドシート使用・不使用別事故被害

注1) 平成11年～15年中の事故

注2) 致死率＝死者数／死傷者数

財団法人交通事故総合分析センター資料より



グラフからもチャイルドシート使用による、被害の軽減効果は明らか。重大な被害を招く事故の多くが前方の衝突であることから、体の飛び出しを防ぐことが、命を守る最善の方法だと考えられます。

平成11年（1999）4月末の国会で 「道路交通法改正案」が可決・成立

⇒6歳未満の子どもを車に乗せる場合には
チャイルドシート使用が義務づけられる
（子どもを守るのは親の義務であり、責任でもある）

⇒**2000年4月1日**より施行

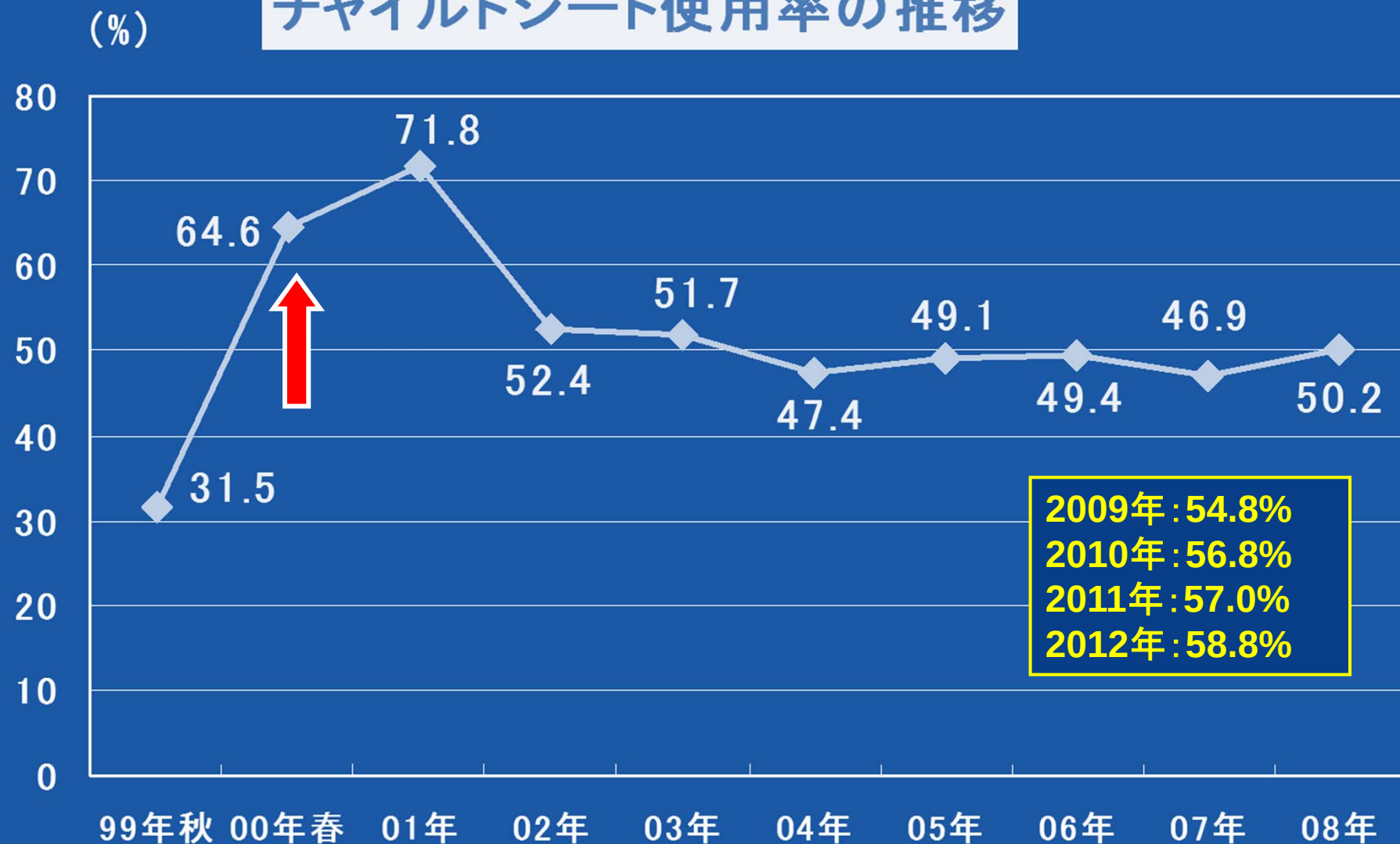
諸外国におけるチャイルドシート使用の法制化

オーストラリア 1975年

アメリカ(テネシー州 1978年、全米50州 1985年)

アジア(シンガポール1992年、香港、韓国1995年高速道)

チャイルドシート使用率の推移



1999(平成11)年4月 国会で道路交通法改正案が可決・成立

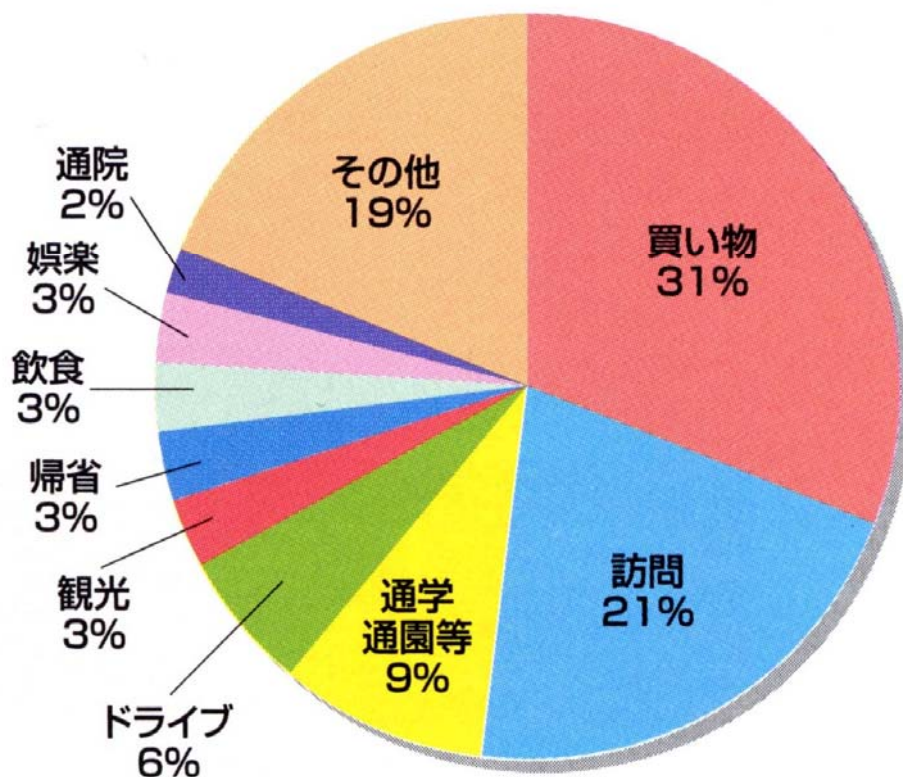
2000(平成12)年4月1日 施行(6歳未満の子どもが自動車同乗中)

自動車同乗中の事故の危険性

(チャイルドシート新完璧
マニュアル:2006より)

通行目的別にみた 自動車同乗中の幼児の死傷者数

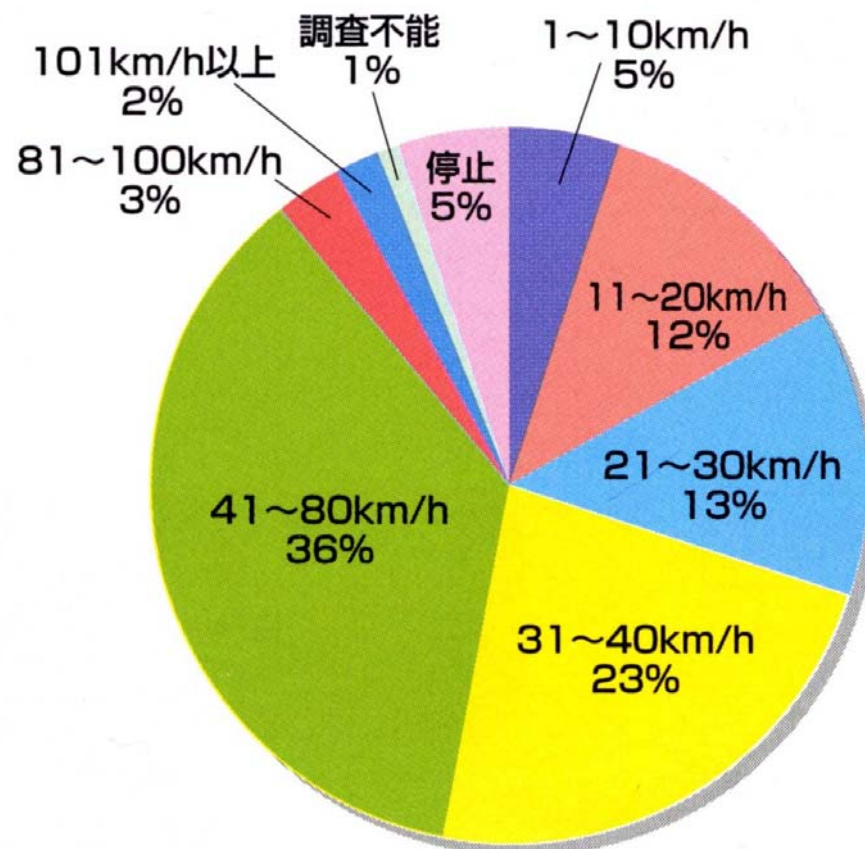
注) 平成11-15年



60%以上の事故はちょっと
そこまでの外出で発生

幼児が同乗していた自動車の危険認知速度 (チャイルドシート不使用の幼児が死亡または重傷であった場合)

注1) 平成11年～15年合計



50%以上の事故は時速
40km以下で発生

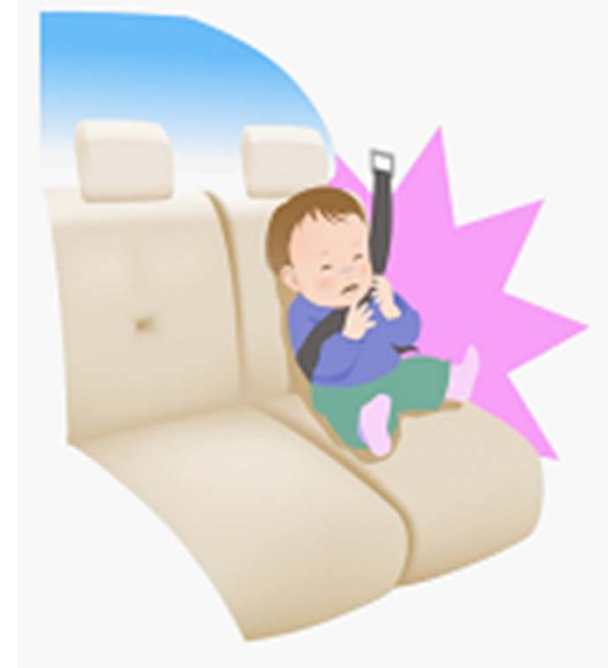
**「チャイルドシートを使わなくても、ゆっくりスピードを出さないで運転していれば大丈夫」
と考えるのは、 大間違い!!!**

⇒ 乳幼児を同乗させる時は常にチャイルドシートを使用する!!

⇒ちょっとそこまでの外出だから　こそ、是非チャイルドシートの着用 を忘れずに!!

車に関連する事故

車のドアやパワーウィンドを閉めるとき、窓などから赤ちゃんの顔や手が出ていないかを確認。閉める前に、「閉めるよ」「**危ないから近づかないで**」と一声かける。窓を自分で操作しないようロック機能を。さらに、シートベルトを引っ張るなどして遊ばせない。



自転車もヘルメットを！



ヘルメットで 大切な子供を守りましょう

平成20年4月1日から
自転車同乗幼児に
ヘルメットを着用させることが
自転車利用者の義務となりました。

頭のけがが
一番危険！



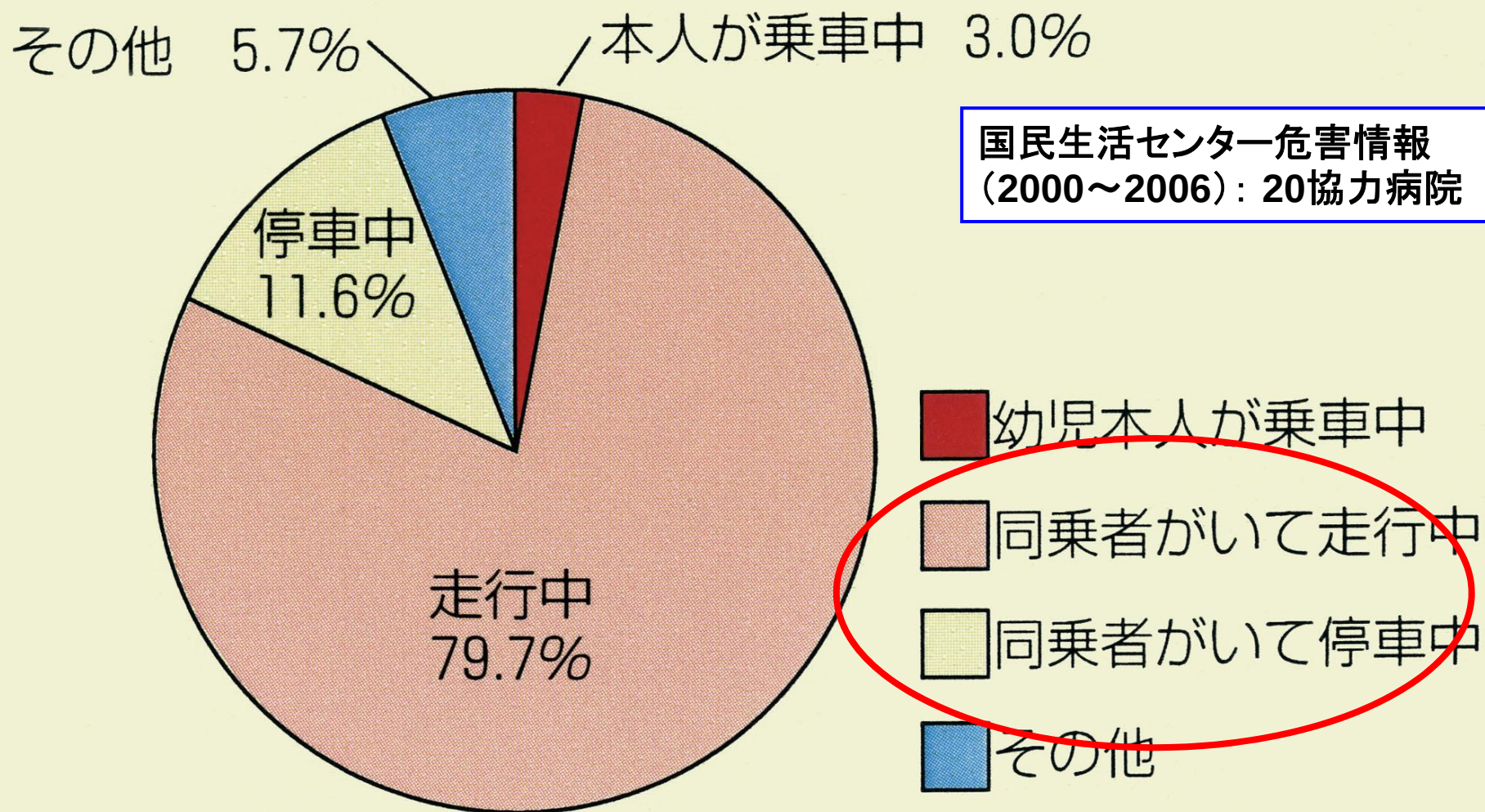
自転車事故では頭部損傷が多い

交通事故における自転車乗員の損傷主部位別死傷者数(全年齢)

損傷主部位	死亡(名)	構成割合	重傷(名)	構成割合	軽傷(名)	構成割合	計	構成割合
全損	51	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	51	0.03%
頭部	523	64.4%	2,340	18.6%	20,611	12.7%	23,474	13.4%
顔部	12	1.5%	545	4.3%	8,345	5.2%	8,902	5.1%
頸部	23	2.8%	276	2.2%	12,976	8.0%	13,275	7.6%
胸部	101	12.4%	1,520	12.1%	7,199	4.4%	8,820	5.0%
腹部	42	5.2%	93	0.7%	1,495	0.9%	1,530	0.9%
背部	2	0.2%	123	1.0%	1,188	0.7%	1,313	0.7%
腰部	35	4.3%	1,010	8.0%	14,374	8.9%	16,419	9.4%
腕部	0	0.0%	2,674	21.2%	28,405	17.5%	31,079	17.7%
脚部	14	1.7%	4,025	31.9%	67,422	41.6%	71,461	40.7%
窒息溺死等	9	1.1%	2	0.02%	18	0.01%	29	0.02%
計	812	100.0%	12,608	100.0%	162,033	100.0%	175,453	100.0%

交通統計 平成18年版より

6歳未満の幼児の自転車事故の発生状況 (n=542)



**91.3%が自転車同乗中の事故であり、
走行中の事故が79.7%、停車中の事故が11.6%を占めた。**

幼児同乗中の自転車事故における走行中事故と停車中事故との比較

	事故のきっかけ (n=542)			危害部位 (n=542)			幼児の乗車位置 (n=292)	
	転倒・転落 (%)	巻き込み (%)	衝突 (%)	頭部 (%)	下肢 (%)	その他 (%)	前方 (%)	後方 (%)
走行中	242 (56.0%)	178 (41.2%)	12 (2.8%)	236 (54.6%)	181 (41.9%)	15 (3.4%)	77 (29.7%)	182 (70.3%)
停車中	63 (100 %)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	63 (100 %)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (87.9%)	4 (12.1%)
計	325 (60.0%)	188 (34.7%)	29 (5.4%)	326 (60.1%)	188 (34.7%)	24 (4.4%)	106 (36.3%)	186 (63.7%)

カッコ内は構成割合を示した、なお乗車位置不明の250名は除いた

①事故のきっかけは**転倒・転落**が最も多く(60.0%)、危害部位は**頭部**が最も多かった(60.1%)。

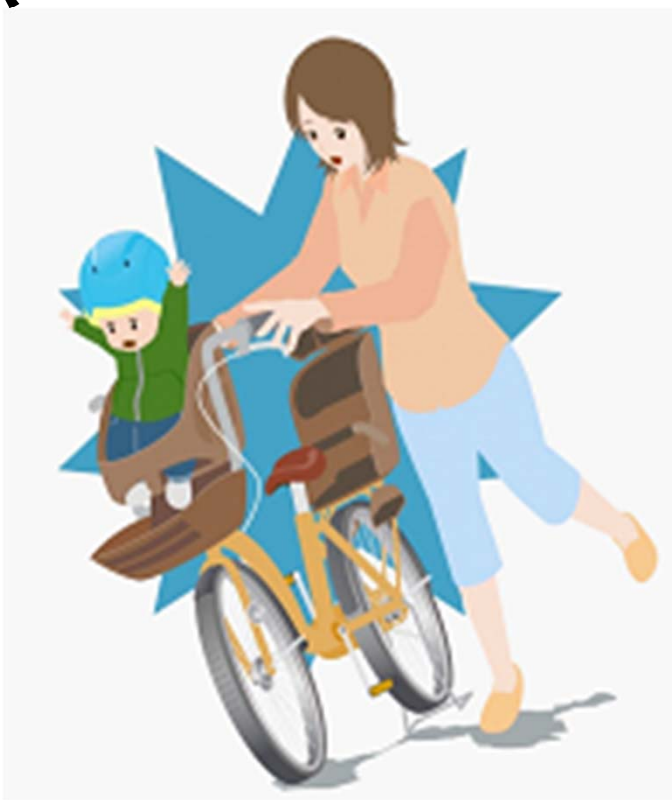
②自転車**走行中**の同乗事故は幼児の乗車位置が同乗者より**後方**のことが多く(70.3%)、転倒・転落による**頭部打撲**と下肢の**巻き込み**事故が多かった。

③自転車**停車中**の同乗事故は幼児の乗車位置が同乗者より**前方**のことが多く(87.9%)、全例が**転倒・転落**により**頭部**を打撲しており、緊急入院を必要とする症例もみられた。

自転車に関連する事故

自転車用幼児座席は、販売店で適切に取り付けてもらう。体重制限に注意し、足乗せを踏み台として使用しない。また、幼児を自転車に乗せる際は、シートベルトの装着とともに、頭部のケガを防ぐため、必ず**ヘルメット**を着用させる。幼児2人同乗自転車では、「**乗せる時には後部座席から前部座席**」、「**降りる時には前部座席から後部座席**」の順番を守る。

1歳未満の赤ちゃんは頭を支える力が弱く、ヘルメットの着用で首への負担が大きくなることがあるので、同乗させないようにしましょう。



**自転車用幼児座席の足乗せ
が折れてしまい、子どもの足
が車輪に巻き込まれケガをし
たり、幼児座席使用時にバラ
ンスを崩し転倒する事故が起
きています。**



家庭での事故対策

平成22年度 子どもセーフティ事故発生動向調査から

県内10ヶ所の定点医療機関から乳幼児の
事故の発生状況や原因の実態を調査収集

金沢地区： 石川県立中央病院、金沢赤十字病院、
浅ノ川総合病院

加賀地区： 加賀市民病院、小松市民病院、公立
松任石川中央病院

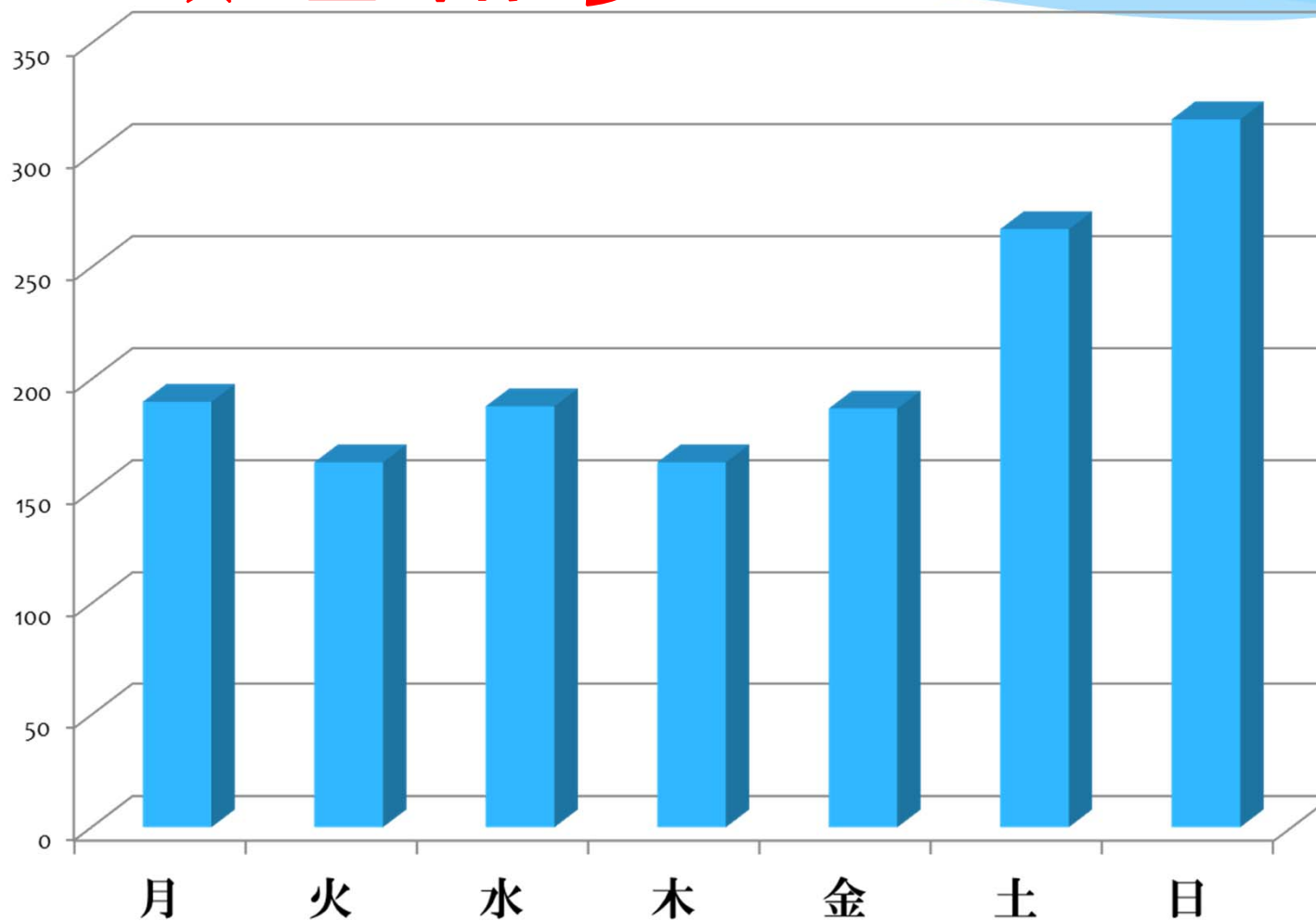
能登地区：公立能登総合病院、恵寿総合病院、市
立輪島病院、珠洲市総合病院

乳幼児の事故

- * 事故が発生する曜日は**土日**が多い
- * 時刻は**夕方から夜**にかけて多い
- * 年齢は**1歳**が最も多く、次いで2歳で、以後年齢とともに減少
- * 事故が起こる場所は**家庭内**、特に**居間**が多い
- * 事故の原因としては、**落ちる、転ぶ**が多い
- * **擦過傷、捻挫、打撲**が多い
- * 治療不要や即日治療完了の**軽症**が多い

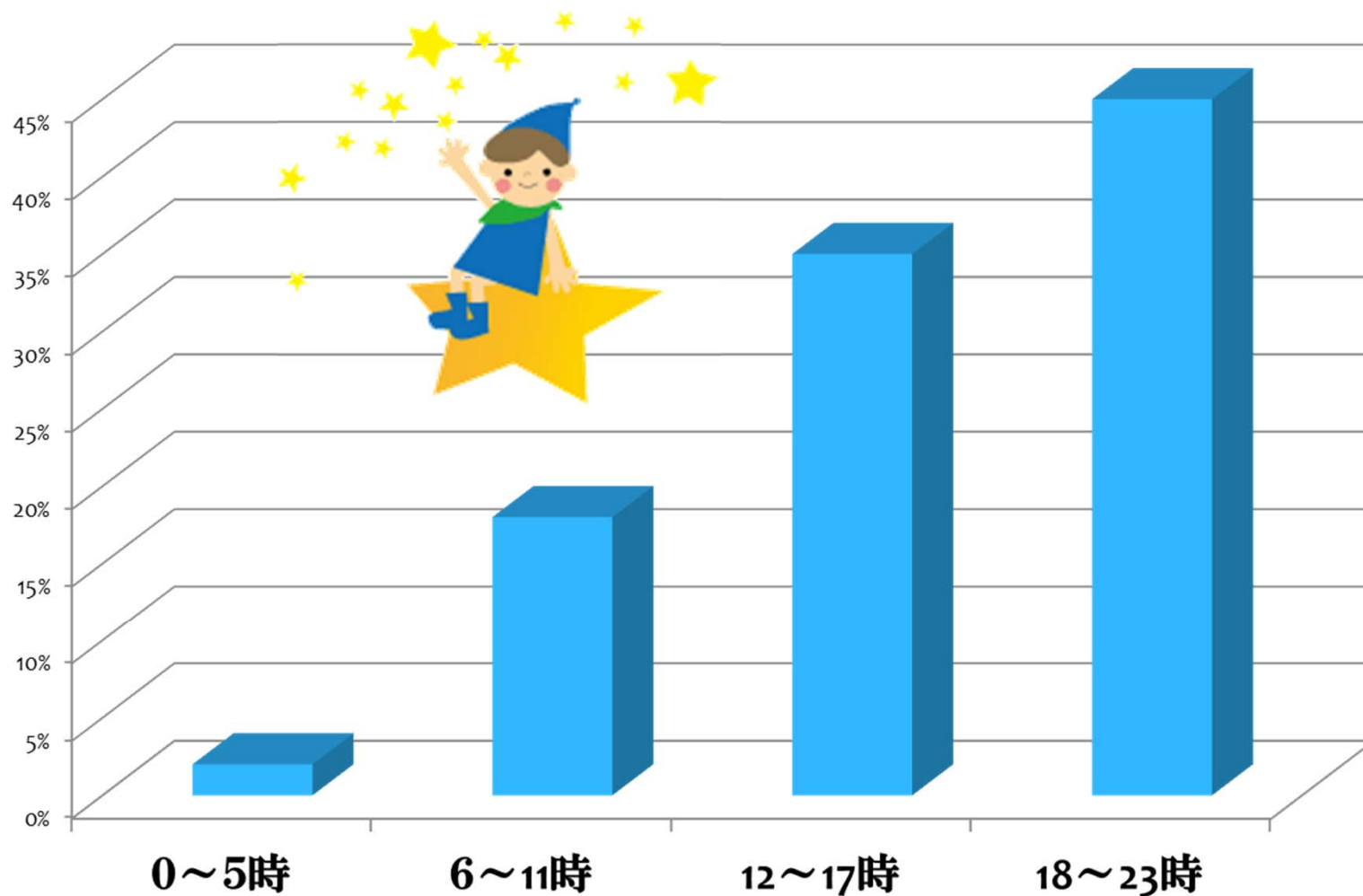
① 曜日別事故発生数

☆ 土・日に多い



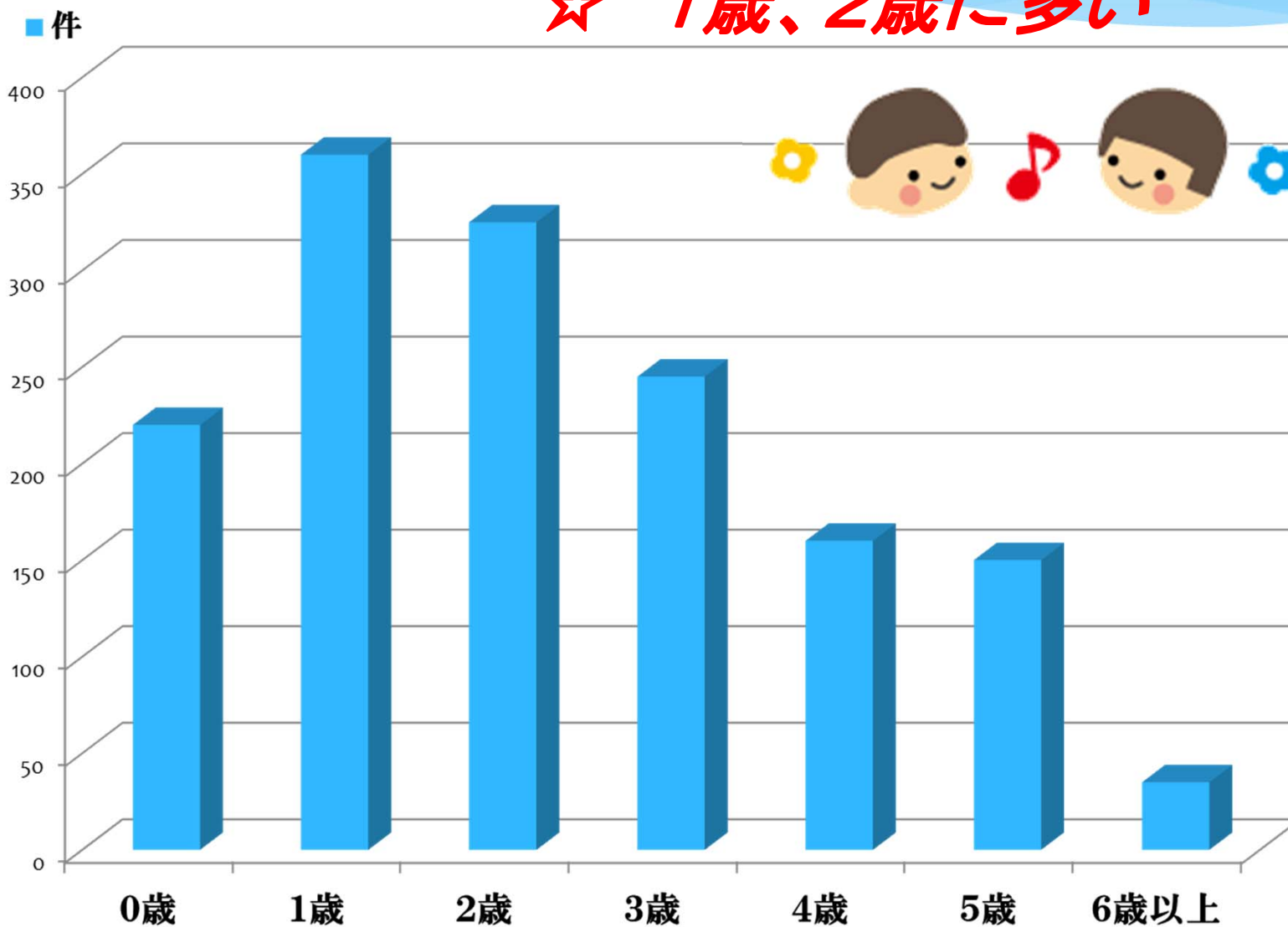
② 事故発生時刻

☆ 夕方から夜間にかけて多い

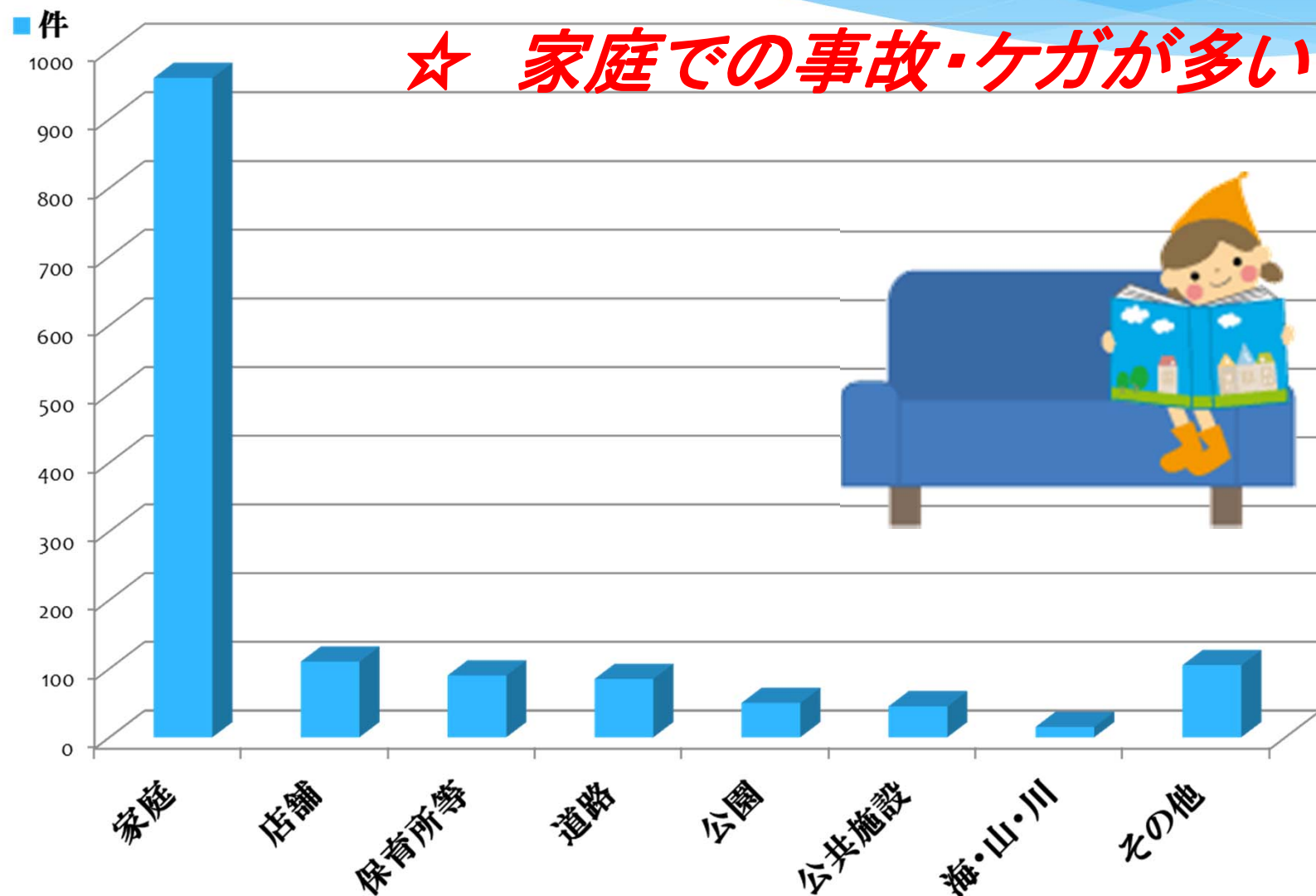


③ 事故にあった年齢

☆ 1歳、2歳に多い

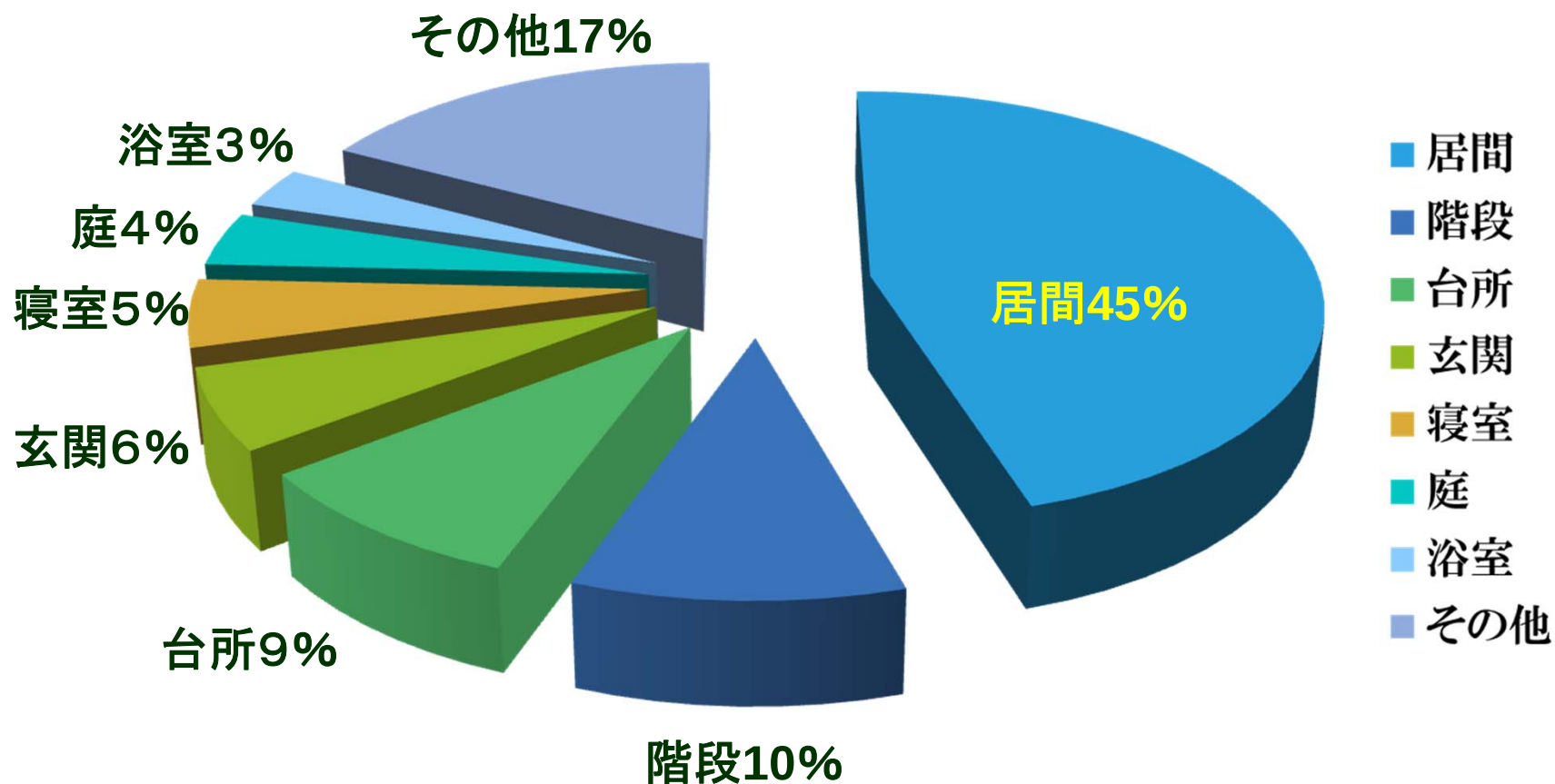


④ 事故がおきた場所



家庭での事故が起きた場所

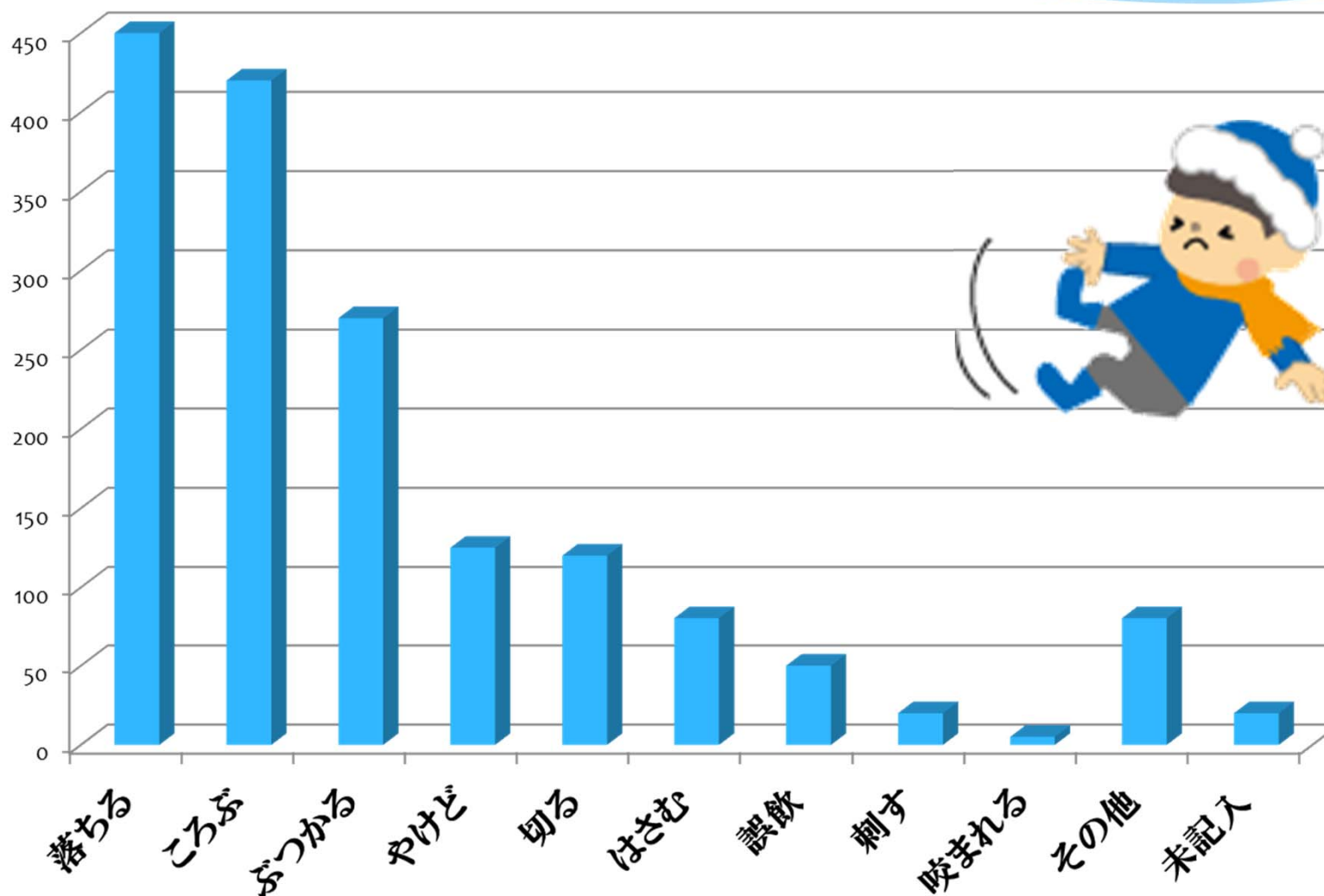
☆ 居間での事故が一番多い



⑤ 事故の原因

☆ 「落ちる」「転ぶ」が多い

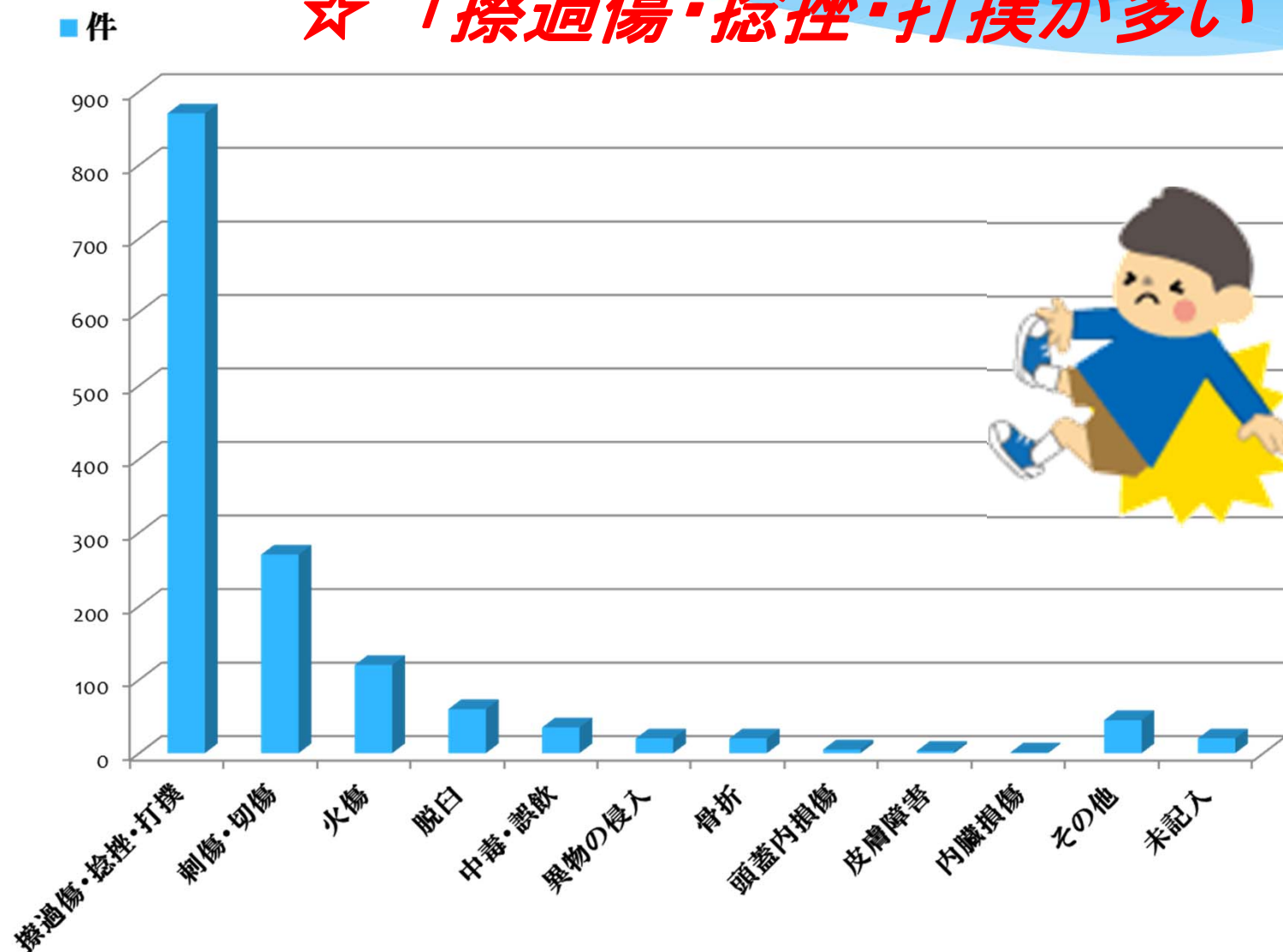
■ 件



⑥

医師による診断名

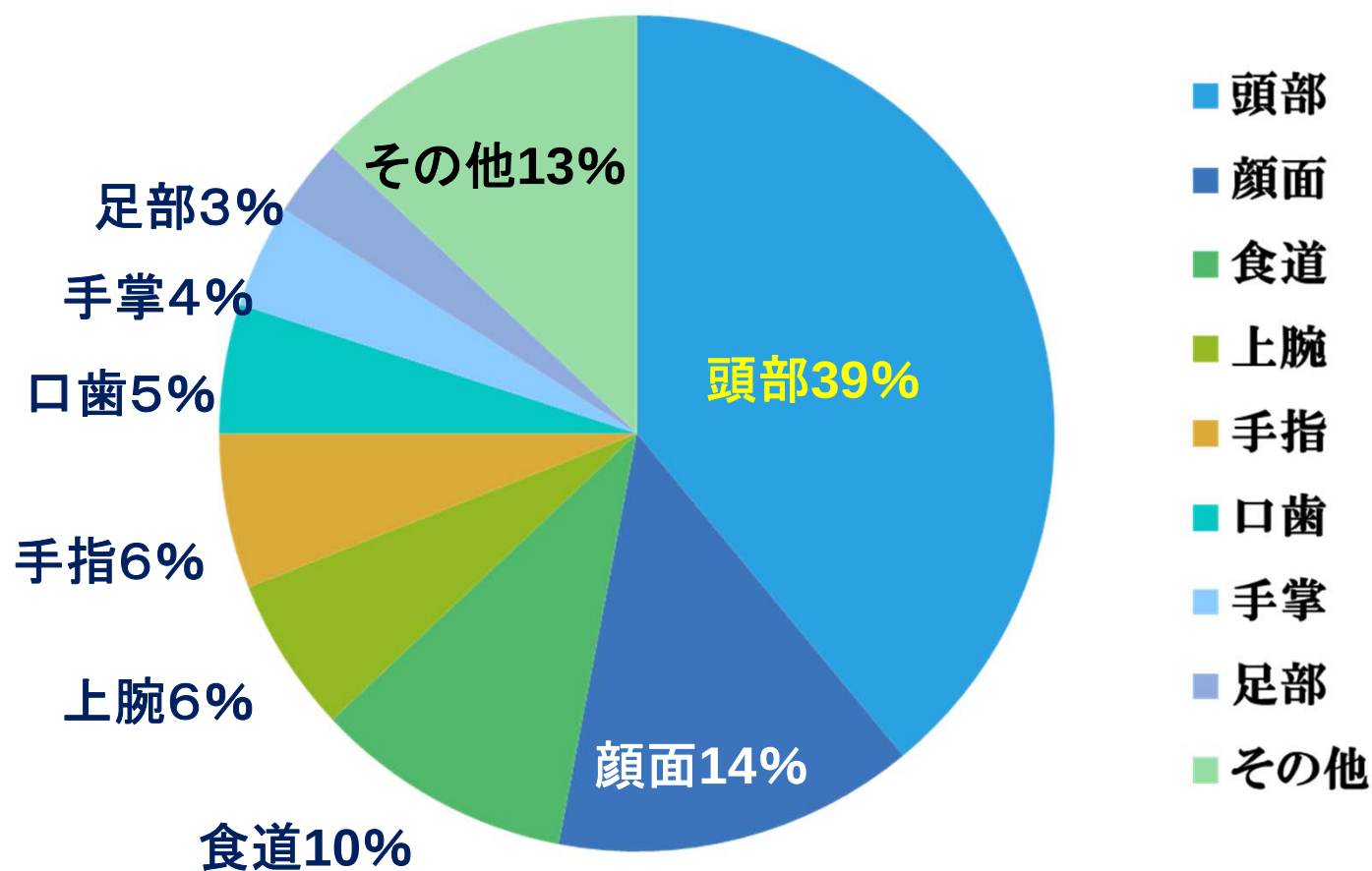
☆ 「擦過傷・捻挫・打撲が多い」



⑦

傷病部位

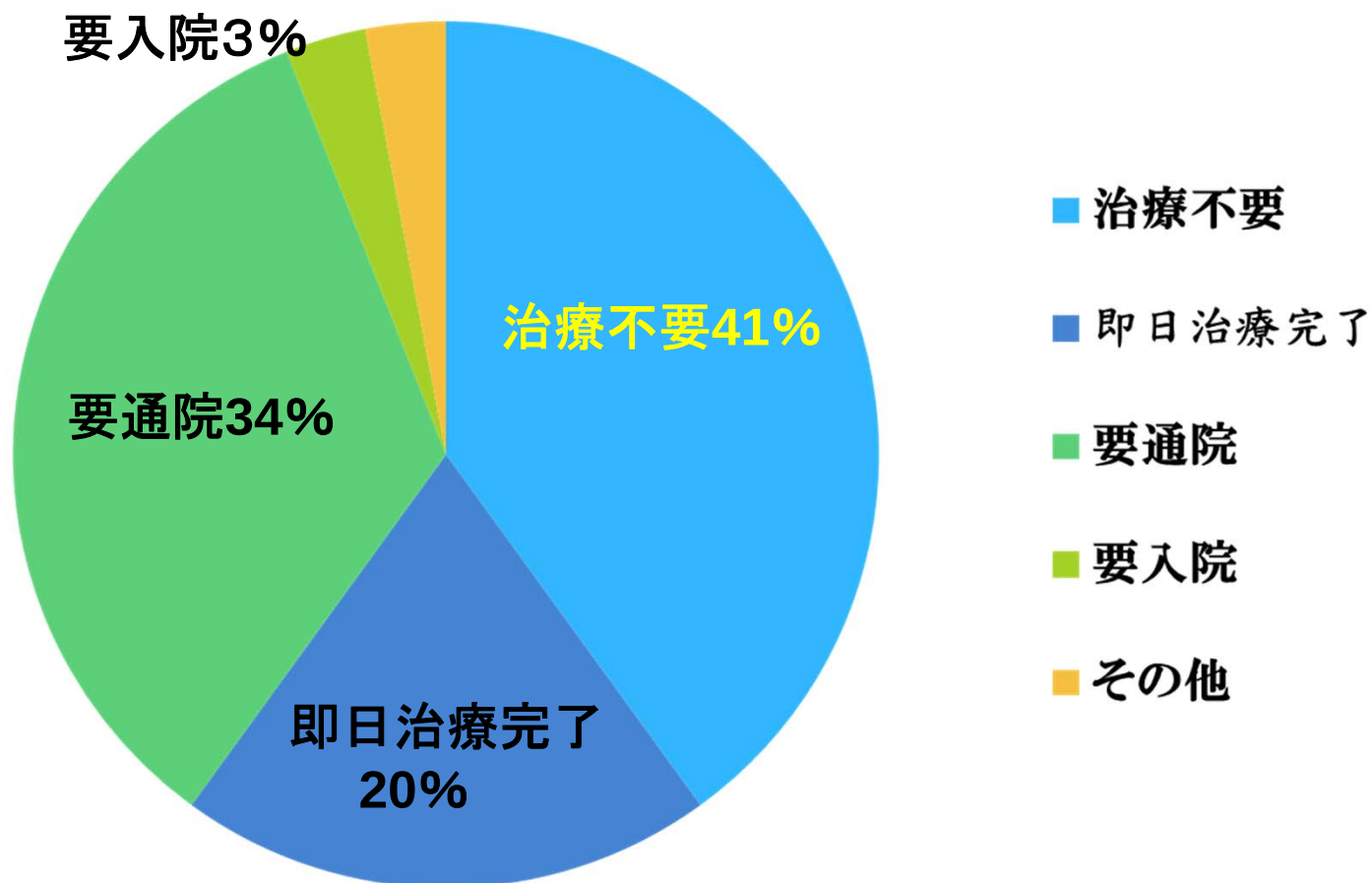
☆ 頭部が多い



⑧

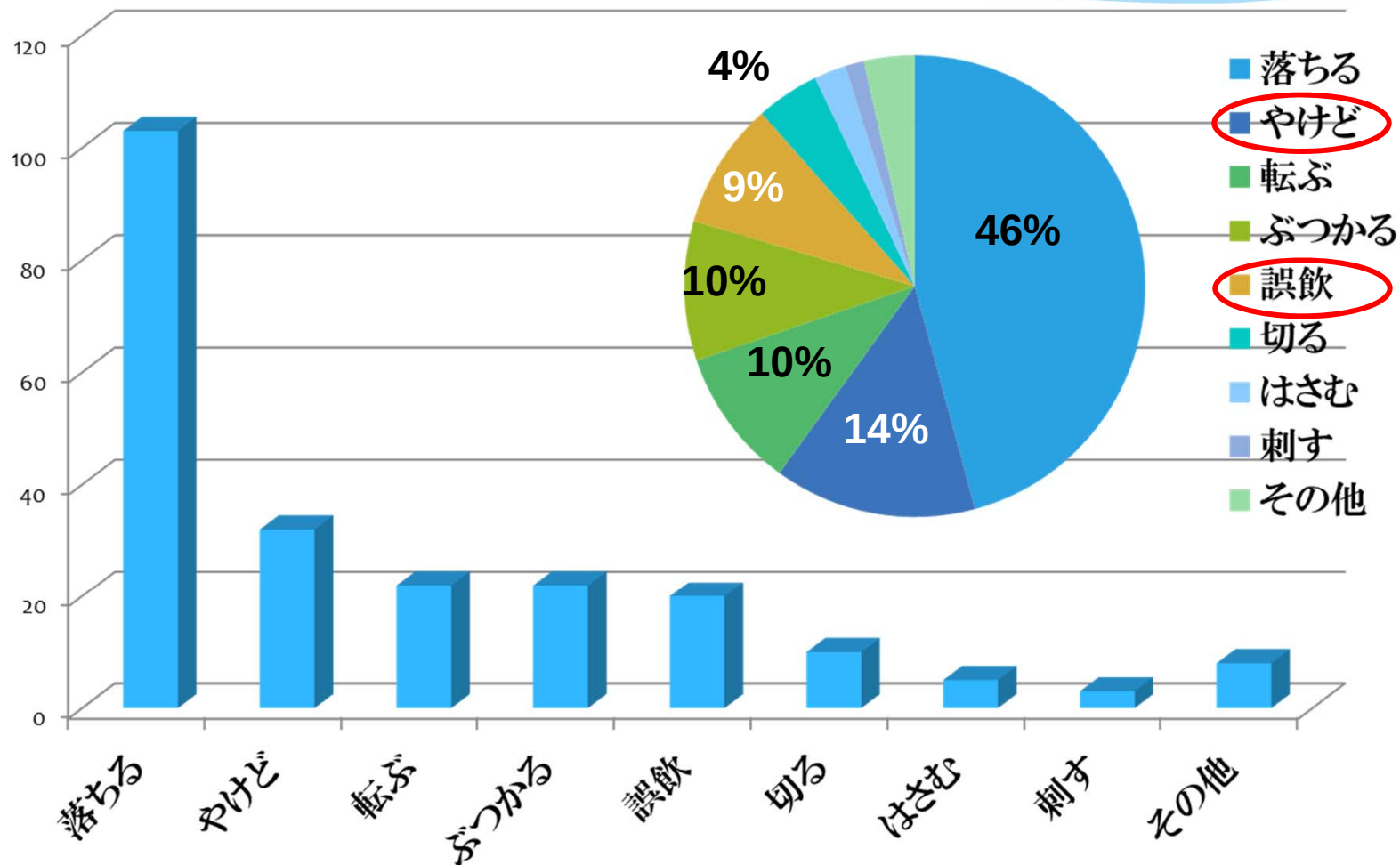
処置見込み

☆ 治療不要が約4割



0歳児の事故の原因(複数回答)

平成22年



石川県子ども事故予防通信



な
あ
い
ぶ

家庭の中の事故に注意

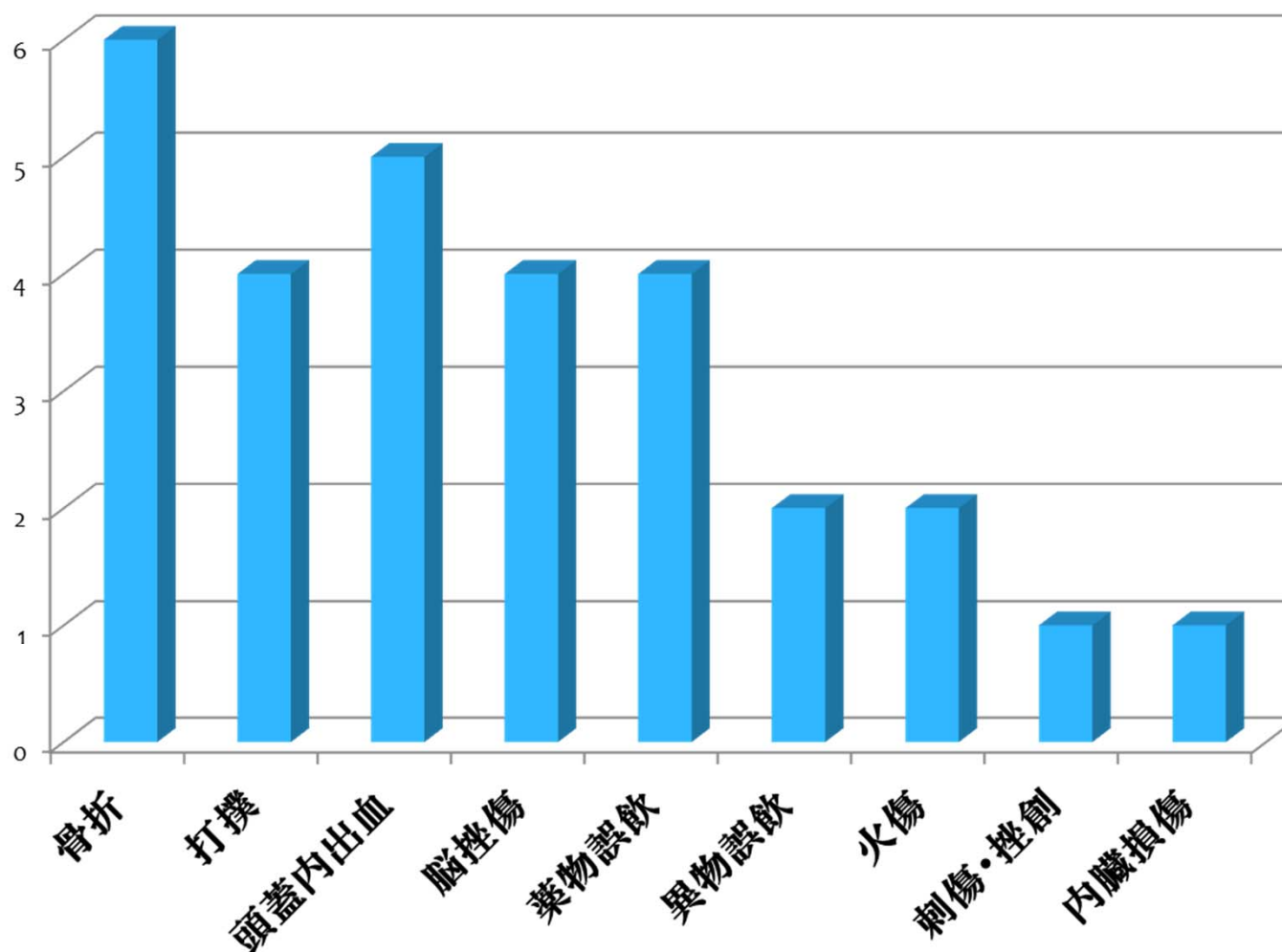
キッチン・風呂編

入院患者数 : 23件

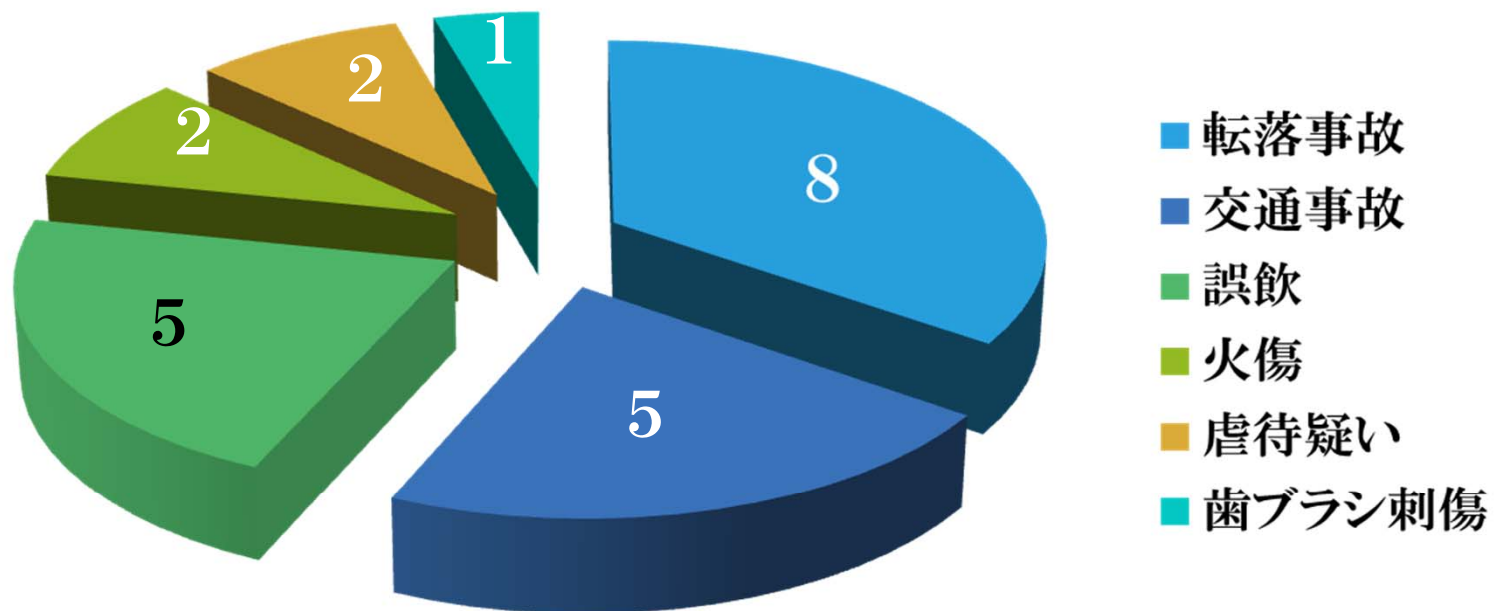
平成22年度

傷病名 (複数記載あり)

■ 件数



入院を要した事故の原因



骨折の事故原因

☆ 事故原因は転落が多い

平成22年度の事例

- 自転車で転倒(1歳)
- すべり台から転落(3歳)
- 公園の山から転落(5歳)
- うんていから転落(5歳)
- 石垣から転落(5歳)・・・重症
- 母の肩から転落(日齢2)・・・重症



(骨折部位：上腕骨踝上、橈骨、尺骨が多い)

脳挫傷・頭蓋内出血

平成22年度の事例

- ベッドから転落 …… 1ヵ月、男
脳挫傷
- 交通事故 …… 4歳、男
脳挫傷・外傷性くも膜下出血
- 交通事故 …… 4歳、女
脳挫傷・外傷性くも膜下出血
- 虐待疑い …… 日齢2、女
急性硬膜外血腫・頭蓋骨骨折
- 虐待疑い …… 1歳、男
急性硬膜下血腫・脳挫傷
(死亡)

石川県子ども事故予防通信

あ
い
ぶ



家庭の中の事故に注意

リビング編



事故予防 チェック

- ① 子どもから目を離さないような工夫はしていますか？
- ② 部屋はいつもキレイにしていますか？
- ③ 転んでもケガをしない配慮はしていますか？
- ④ 階段やドアやストーブに柵はしていますか？
- ⑤ タバコや灰皿は子どもの手の届かない所においてありますか？
- ボタン電池の誤飲やビーナッツなど豆類の誤嚥はとても危険です。
- 他にも家族でいろいろチェックしましょう。

【お問い合わせ先】

石川県医師会

〒920-8660 石川県金沢市鞍月東2丁目48番地
TEL (076) 239-3800 (代) FAX (076) 239-3810

E-mail: ishikai@ishikawa.med.or.jp

石川県子ども事故予防通信

あ
い
ぶ



家庭の中の事故に注意

キッチン・風呂編



事故予防 チェック

- ① 子どもから目を離さないような工夫はしていますか？
- ② 薬や化粧品や洗剤類は使ったすぐに片づけていますか？
- ③ お風呂のお湯は残したままになっていませんか？
- ④ 階段やドアやストーブに柵はしていますか？
- ⑤ タバコや灰皿は子どもの手の届かない所においてありますか？
- ボタン電池の誤飲やビーナッツなど豆類の誤嚥はとても危険です。
- 他にも家族でいろいろチェックしましょう。

【お問い合わせ先】

石川県医師会

〒920-8660 石川県金沢市鞍月東2丁目48番地
TEL (076) 239-3800 (代) FAX (076) 239-3810

E-mail: ishikai@ishikawa.med.or.jp

身のまわりの事故に注意 ぽいぶ

重症事故編

県内で起きた入院を要する中等度以上の傷病を報告します

- ※ 切創・挫傷・・・1件
- ※ 交通事故・・・2件
- ※ やけど・・・2件
- ※ 頭蓋内損傷・・・1件
- ※ 打撲・・・3件
- ※ 内臓損傷・・・1件
- ※ 異物誤飲・・・2件
- ※ 急性硬膜外血腫・・・1件
- ※ 薬物誤飲・・・4件
- ※ 脳挫傷・・・3件 (1人死亡)
- ※ 骨折・・・6件

(平成22年定点医療機関届出票より集計)

事故冰山図

1～4歳



死亡事故1件の影に、類似した膨大な数の事故が発生していることを表した図。

(田中町医師会改定)

骨折の事故原因を報告します

- ※ 自転車で転倒する
- ※ すべり台から転落する
- ※ 公園にある山から転落する
- ※ うんていから転落する
- ※ テトラボットから転落する
- ※ 石垣から転落する

骨折が多い!!



0歳

誤飲・誤嚥

事故による死因1位は窒息
こんやく入りゼリーに注意



1～14歳

交通事故

事故による死因1位



事故予防
チェック

- 子どもから目を離さないような工夫はしていますか?
- 薬や化粧品や洗剤等は使ったらすぐに片づけていますか?
- お風呂のお湯は残したままになっていませんか?
- 階段やドアやストープに絡まっていますか?
- タバコや炭団は子どもの手の届かない所に置いてありますか?
- ボタン電池の誤飲やピーナッツなど豆類の誤嚥はとても危険です。
- 他にも家族でいろいろチェックしましょう。



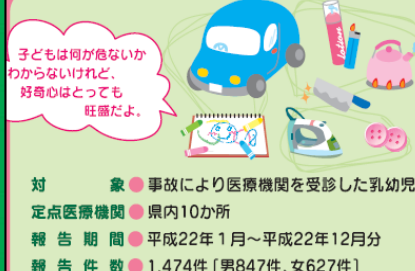
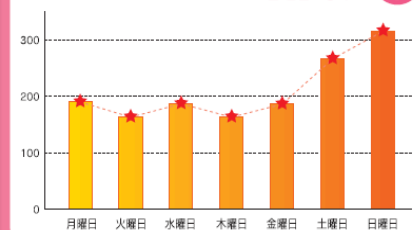
石川県医師会

〒920-8660 石川県金沢市坂月東2丁目48番地
TEL(076)239-3800 (代) FAX(076)239-3810
E-mail: ishikai@ishikawa.med.or.jp

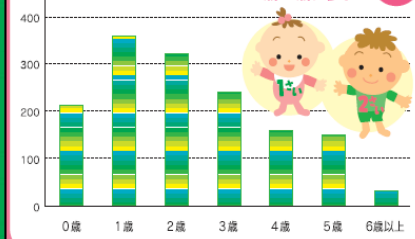
データで見る子どもの事故

1歳以上の子どもの死因1位は事故です。

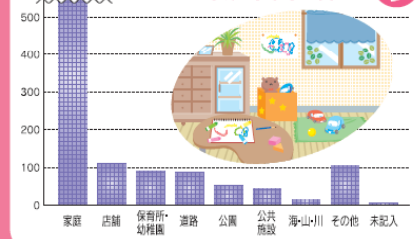
事故の発生曜日
土・日曜日に多い ①



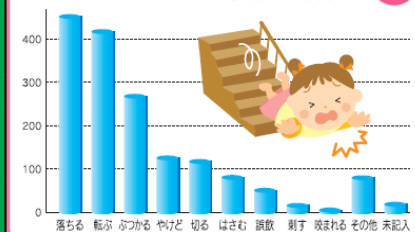
事故にあった年齢
1歳・2歳に多い ②



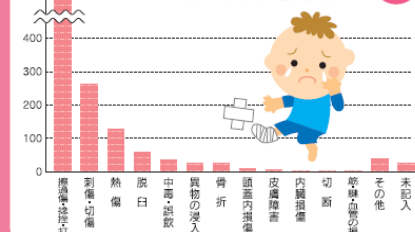
事故がおきた場所
家庭によるものが多い ③



事故原因
「落ちる」「転ぶ」が多い ④



医師による診断名
「擦過傷・捻挫・打撲」が多い ⑤



注意しましょう

県内の定点医療機関から提供された
就学前の子どもの事故情報について
報告いたします。

【お問い合わせ先】



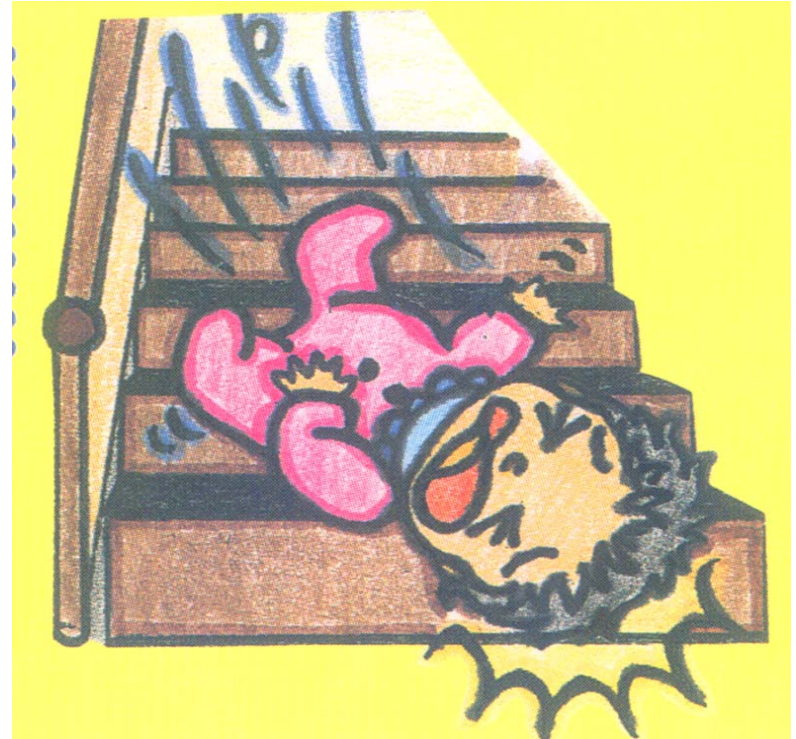
石川県医師会

〒920-8660 石川県金沢市坂月東2丁目48番地
TEL(076)239-3800 (代) FAX(076)239-3810
E-mail: ishikai@ishikawa.med.or.jp

転落・転倒の対策

「階段」

- 階段の降り口には
ガード柵などを取り
付けておきましょう



「ベランダ」

- 子どもの足場にな
るような物を
置かない



「寝室」 (ベビーベッド)

- ベッドの柵はきちんと。
寝返りしても落ちない
ようにね。



「ベビーカー」

「赤ちゃん用イス」

- 不安定なので転落する恐れがあります。
- 手を離したり、目を離さないようにしましょう。

誤飲・窒息に注意！

乳幼児の誤飲

乳児は**生後5～6ヶ月**になると、**正常な発達行動**として手にした物を**何でも口へ持っていく**

わが国の誤飲の発生頻度は世界的にみても異常に高い(米国の3~4倍、年間約10万人の子どもが誤飲事故のために医療機関を受診していると推定される)

⇒**畳や床での生活様式(玄関で靴を脱ぐ)**が関与

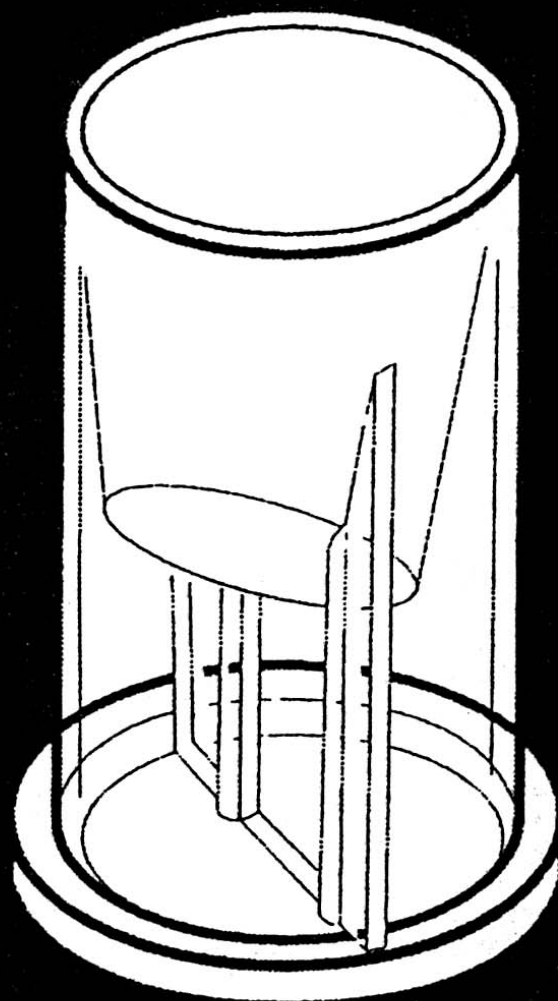
誤飲ワースト5

- ①たばこ、②医薬品、③化粧品
- ④洗剤、⑤殺虫剤

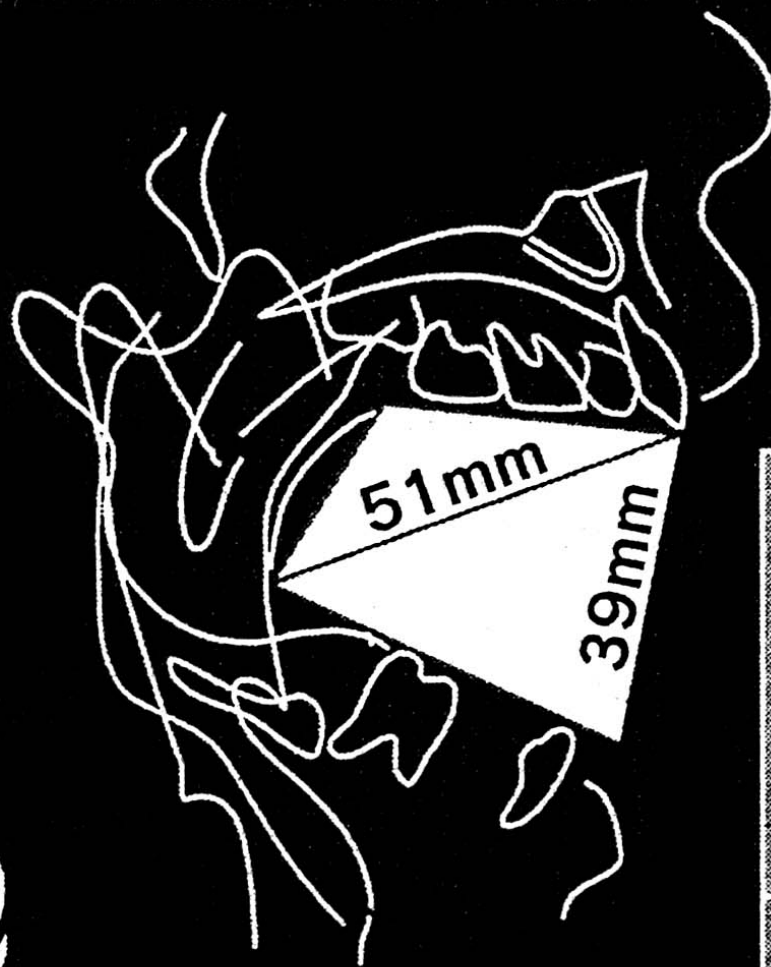
① 口の中に入る大きさは？

② 手が届く高さは？

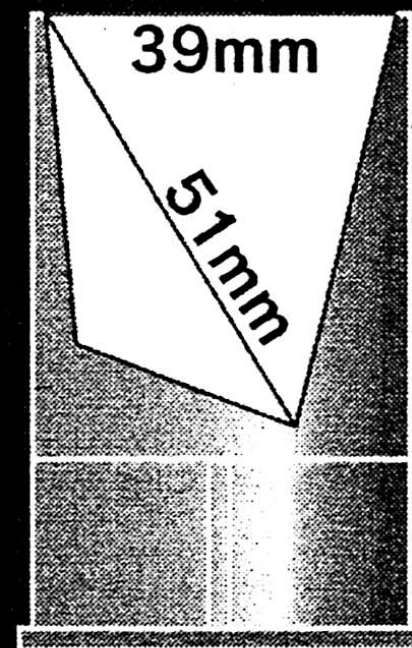




立体図



3歳児



誤飲チェッカー（山中龍宏・田村康夫 作製）

乳幼児のタバコ誤飲事故と
タバコがあった場所（高さ）との関係

②手が届く高さは？

存在位置 (高さ、cm)	家具の種類	発生件数			
		紙巻き タバコ	吸い殻	他	計
高い所 (約75cm以上)	食卓、机、テレビ等	21	14	0	35 (18.7%)
中間の所 (約20~50cm)	こたつ、座卓等	39	37	3	79 (42.2%)
低い所 (約20cm以下)	たたみ、床、板の間、 ジュウタン等	30	34	1	65 (34.8%)
屋 外	道路、公園など	1	5	2	8(4.3%)
小 計		91	90	6	187 (100%)

タバコ誤飲
事故の77%
は高さ50cm
以下の場所
に置いて
あった



1m以上の
高さなら、ま
ず大丈夫

誤飲防止の指導

口径**39mm以下**の大きさの物は、床からの高さが**1m以上**の場所に置く（部屋や身の回りの後かたづけ）

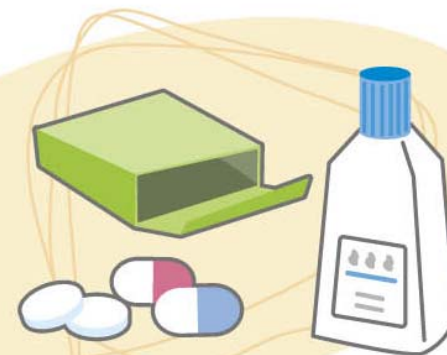
誤飲・誤嚥事故(平成22年度、石川県)

- * 祖母の薬(降圧剤) 3歳女
- * 降圧剤 3歳男
- * ほう酸ダンゴ 0歳女
- * かぜシロップ 3歳女
- * おもちゃのタイヤ 5歳男
- * おもちゃの部品 4歳女

たばこ誤飲は
減少している

1位

医薬品



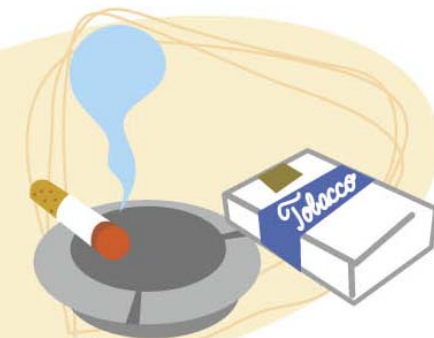
2位

化粧品



3位

たばこ



タバコの誤飲

タバコは、赤ちゃんの手が届かないところに置く。

タバコは2センチ以上飲み込むと、ひどい中毒症状が出るおそれがあり、注意が必要。

また、灰皿代わりに使った空き缶に残った液を飲んでしまうと、乾いたタバコよりも吸収が速く危険。空き缶を灰皿代わりに使わない。

赤ちゃんの周辺での喫煙は、赤ちゃんの健康に悪いので控える。



吐かせてはいけないとき

- * 意識がないとき
- * けいれんのあるとき
- * 強い酸・強いアルカリの場合
- * 灯油・ガソリン
- * 吐物が血性のとき
- * 尖ったもの

ちっ息の危険

食道損傷悪化

肺炎の危険

出血の増悪

食道損傷

誤飲応急手当

子どもは好奇心がいっぱい

日用品

品目	応急処置	水を飲ませる	牛乳	吐かせる	すぐに病院へ
たばこ		○		○	
消毒薬（マキロン）				○	☆
水銀体温計	処置不要				
殺虫剤（有機リン系）			×	×	☆
防虫剤（ナフタリン）		○	×	○	☆
灯油・シンナー				×	☆

誤飲応急手当

子どもは好奇心がいっぱい

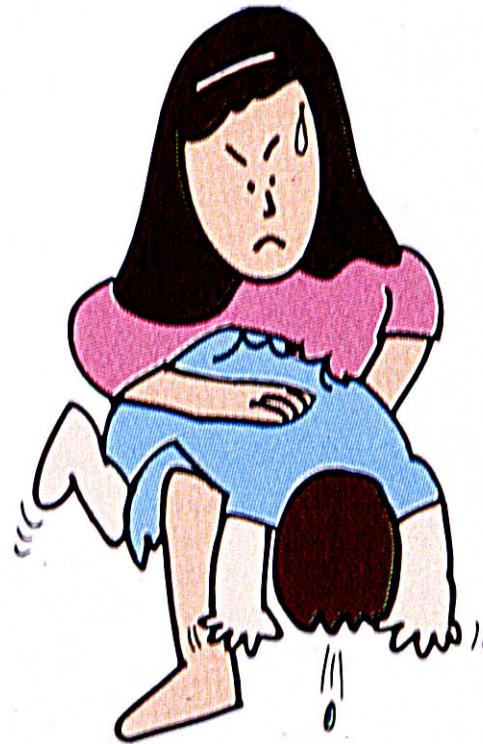
水まわり品

品目 \ 応急処置	水を飲ませる	牛乳	吐かせる	すぐに病院へ
石けん・シャンプー	○	○	○	
逆性石けん	○	○	×	
ヘアリンス	○	○	×	
漂白剤	○	○	×	★
洗濯用合成洗剤	○	○	○	
トイレ用洗剤	○	○	×	★

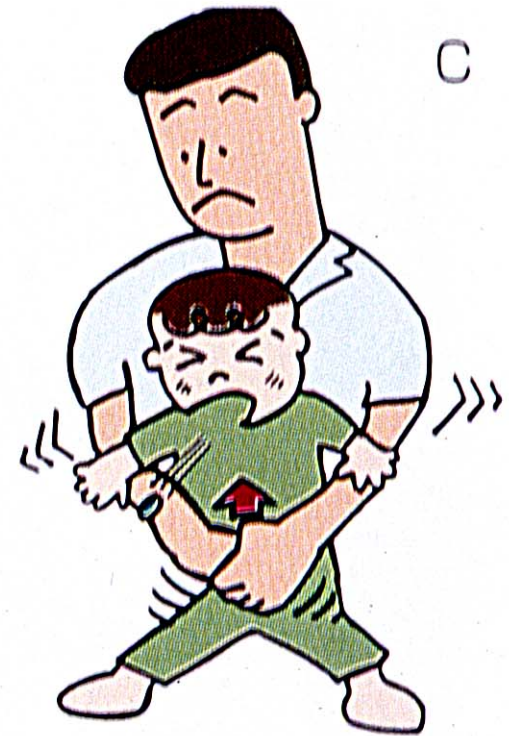
喉頭異物の処置



A 背部叩打法
(乳児)

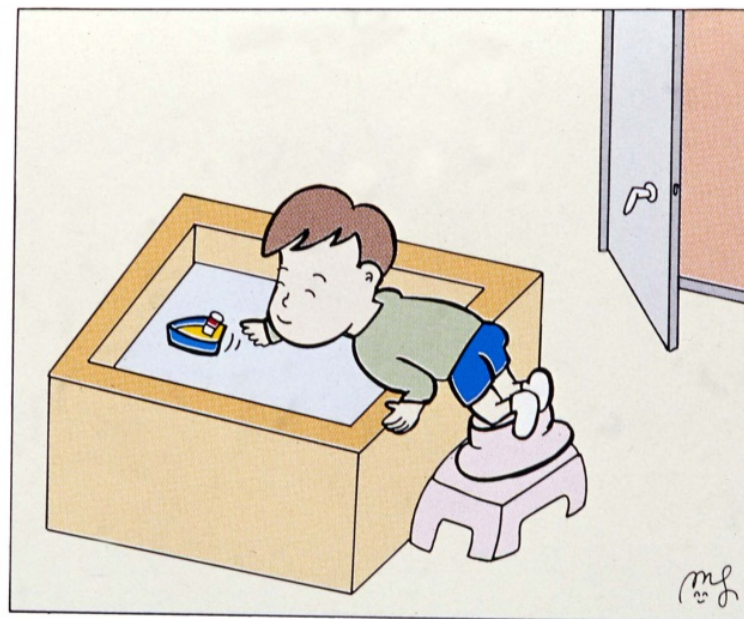


B 背部叩打法変法
(少し大きい子)



C ハイムリッヒ法
(年長児)

**お風呂の水は
抜いておく！**

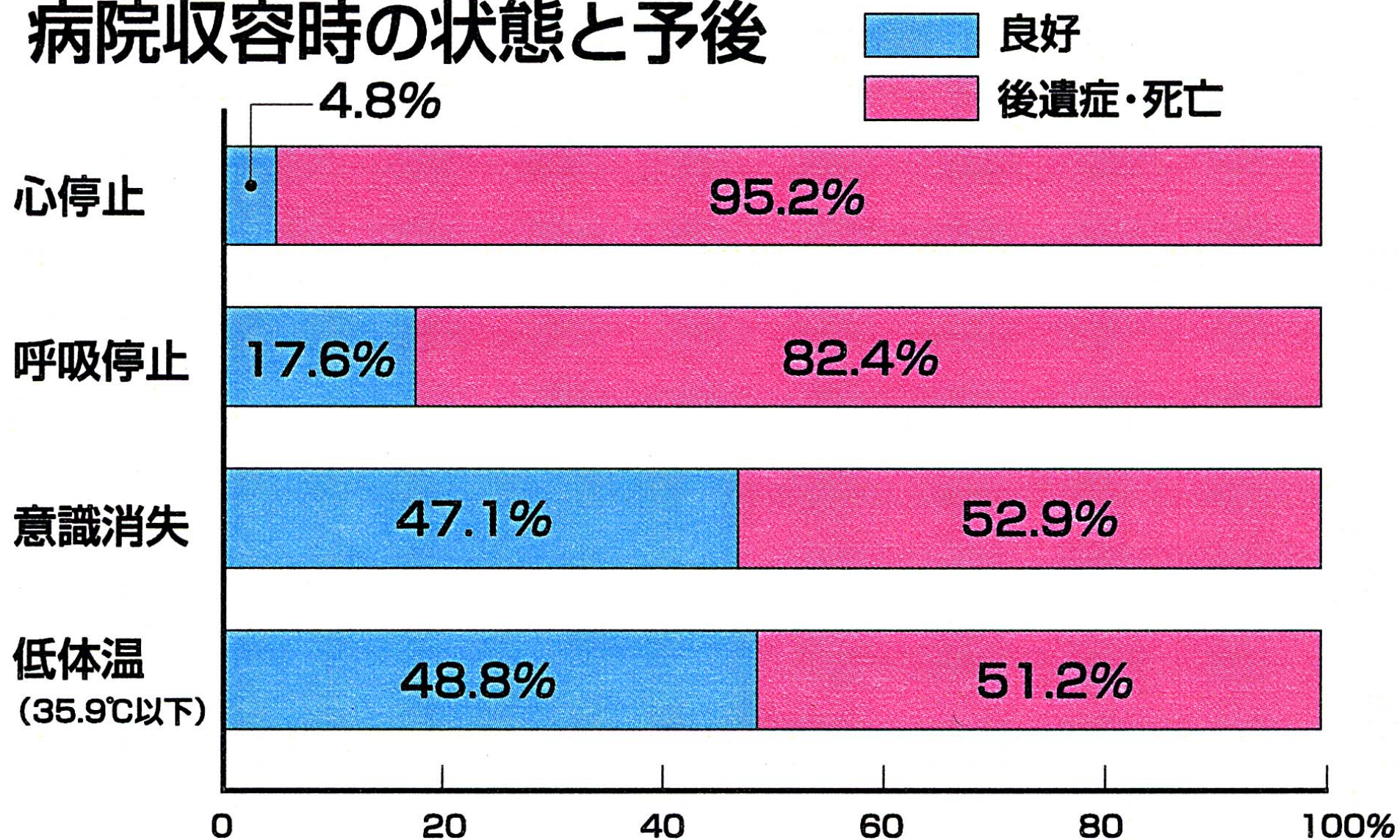


小児の溺水の年齢別・場所別分布

年齢 溺水場所	1歳未満	1歳	2～4歳	5～9歳	10歳以上	合計
風呂の浴槽	46	198	27	9	6	286
屋内（風呂以外）	6	10	5	0	0	21
屋外（家の周辺）	0	9	15	5	0	29
プール	3	3	29	25	11	71
川	0	7	22	18	13	60
池	1	31	21	3	0	56
海、湖	0	3	33	29	15	80
合 計	56	261	152	89	45	603

水田 隆三 日本医事新報（1992）より

病院収容時の状態と予後

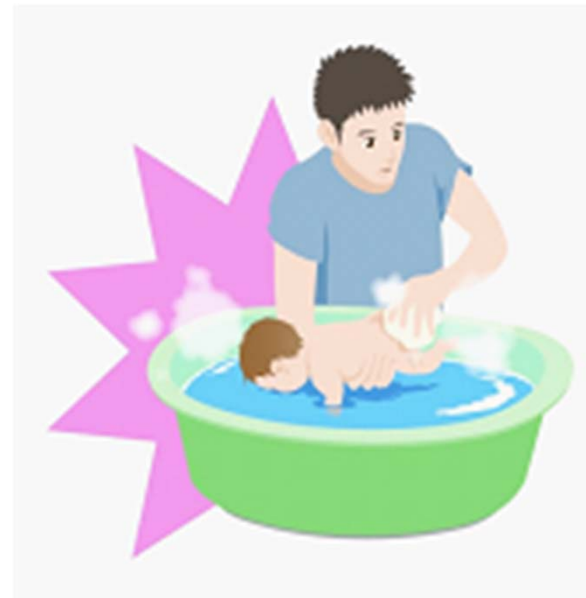


水田 隆三 日本医事新報 (1992) より

入浴時の事故

入浴のときは、床がすべりやすくなっていないか、確認を。
また、入浴中は赤ちゃんから目を離さない。

入浴のときに、石けんなどですべり、赤ちゃんを浴槽などに落とすことがあります。また、赤ちゃんをベビーバスなどでうつぶせにして体を洗っているとき、赤ちゃんの顔がお湯についていることに気がつかずに、溺れるおそれがあります。



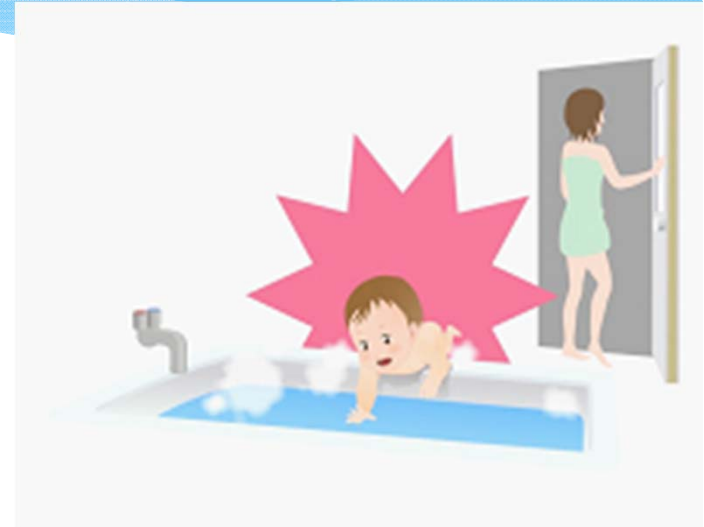
浴室での事故

**入浴中の赤ちゃんから、
目を離さない。**

**入浴後は浴槽の水を抜いて
おく。**

浴室には外鍵を付ける。

**浮き輪を浴槽で使用中にも、
目を離さない。**



乳幼児の自宅風呂場での 溺水事故防止対策

①子どもが一人で浴室に入れないような工夫をする

②残し湯の習慣を止める

③子どもと一緒に風呂に入っている時は絶対に目を離さない

やけどの事故を防ごう

熱い飲食物

- * テーブルのすみに熱いものを置かない
- * テーブルクロスは使用しない
- * 子どもを抱っこして熱いものを食べたい飲んだ
りしない



熱い固体

- * アイロンを床や低いテーブルに放置しない
- * ストープには囲いをする
- * ポットは転倒防止・湯こぼれ防止機能付きを
- * フラグは磁石式のものを
- * コンセントにはカバーをする

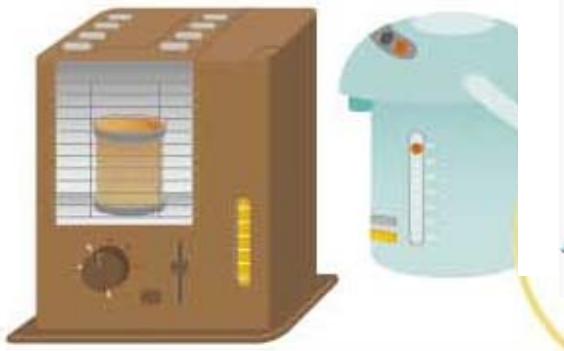
アイロン



むき出しの
コンセント

感 電

ストーブや 電気ポット



花火

* 3歳未満は手持ち花火禁止



やけど（火傷）

種 別	皮膚の様子	症 状	手当後の経過
I 度の やけど	赤くなる	ひりひり痛む	数日で治る あとは残らない
II 度の やけど	水ぶくれ できる	激しく痛む	1～2週間で治る あとはただれない
III 度の やけど	青白くなる 黒くこげる	痛みはない	数ヶ月の治療が必要 あとが残る 皮膚移植が必要な場合もある

やけどの手当

まず冷やす

- 水道の水で痛みがなくなるまで冷やす。
- 衣類の上から急いで冷水をかける。
- 水ぶくれ(水疱)はつぶさずに、そのまま冷やしながら医療機関へ。
- 医師に見せる前には、消毒薬、軟膏、油などは塗らない。



子どもの事故の予防には

事故防止対策と

毎日の注意が必要です！

資料のダウンロード：石川県医師会

<http://www.ishikawa.med.or.jp/>